

社長、曰く。

トップインタビュー

座右の銘

現状維持では
後退するばかりである！

株式会社日本マイクロニクス

代表取締役社長 長谷川 正義 氏

この座右の銘はキヤノンマーケティングジャパンの
複合機、プリンタの新聞広告に11月に掲載されました。

「常に発展、進化し続けるために」

これは、ウォルト・ディズニーの言葉です。

ディズニーは、長い歴史を人に飽きられずに発展し続けています。同様に、半導体の技術も現状維持だけではコンペティターに抜かれてしまいますので、我々も発展し続けなければなりません。その意味でも、以前から好きだったこの言葉を選びました。言葉は魂をもちます。創立40周年というこのタイミングで、別々の拠点にいる社員全員が同じ方向を向く必要性を感じました。「原理原則」「観・感・勤」が行動指針としてありますが、これに加えて、社員に向けてのメッセージにしたいと考えました。

自分が社長になる時、従来の達成のステップに「夢(needs)」を加え、達成の5つのステップとしました。「夢(needs)・想定・創意・熱意・実行」この5つを確実に踏んでいくことが必要です。夢は通常の訳は「ドリーム」ですが、日進月歩に進化していくお客様の「needs」を叶えていくのが我々の夢と考えています。

開発など自社で出来る事は自社で行い、他に任せていない事が強みです。パーツが他社製の場合、納期による影響や他社製の部分がボトルネックとして妨げとなることがあります。しかし、自社でキーになるパーツを作っている事で、ワンステップ上げたいという要求にも応えられますし、コストも削減できます。エンジニアリング能力と開発能力、この2点を持っている事がコンペティターとの違いであり、当社の強みだと思えます。

QDCCSS(クダックス: Quality・Delivery・Cost・Compliance・Service・Safety)の順番について、「最初にクオリティーとデリバリーですか？」とよく質問を頂くんです。

良い製品を、期日厳守で納入する。やはりこの2つはコストよりも先なんです。

一定の期間を経た社員の仕事の発表や報告会を通じて、経営側と社員の意見交換の場を積極的に設けています。効率の良いものづくり、そしてグローバル化に考えを合わせていくことを重視し、常に次の手を考えて進化していかなければならないと思っています。

長谷川社長へのインタビューより

株式会社日本マイクロニクス 様は、昭和45年、電子機器メンテナンスを主要業務として創業。昭和48年に半導体検査装置および精密測定機器の開発・販売を開始。昭和51年にプローブカードを開発、昭和52年にマニュアルプローバ1号機を完成、昭和60年には液晶ディスプレイ検査装置の日本での第1号機を完成。平成16年 ジャスダック証券取引所に上場。

経営理念は、「電子計測技術を通して、広く社会に貢献する」

国内重要拠点に開発・生産・販売のネットワークを、海外主要エリアのサービス体制を構築されている、半導体、液晶関係の検査・測定機器のリーディングカンパニーです。

本社所在地: 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8

(株)日本マイクロニクス
代表取締役社長
長谷川 正義 氏



休日は、子供がまだ小さいので、一緒に遊んだり、あとはゴルフとジムですね。ゴルフは達成感がありますよね。90台キープ！何百ヤード飛ばす！など、具体的な目標が出来ますから。年上の方から若い方までプレー出来て、武士の嗜み(たしなみ)というか、現代の茶の湯ですね。どちらも、礼儀と道具を重んじます。社内コンペは25年目、通算50回になりました。練習をしないと面白くないですね。でも、エイジ・シュートを目指す会長には、まったく勝てないです。